

令和7年5月22日

白川郷学園
保護者の皆様

白川村立白川郷学園
校長 川瀬 秀樹

雷鳴が聞こえた時の対応について（お知らせ）

季節を一つ飛ばしたかのような暑い季節になりました。子ども達は暑さに負けないぐらいの熱い気持ちで、毎日の活動に懸命に取り組んでいます。保護者の皆さまには、平素より学園の教育にご理解と温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、昨日の雷による徒歩通学4年生以上のお子さんをもつ保護者の皆さまには急な対応をお願いすることになりましたが、お仕事やご家業の中にも関わらず温かいご協力を賜り、ありがとうございました。全てのお子さんが安全にできたこと、何よりも嬉しく、教職員一同、胸をなでおろしているところです。雷の季節が近づき、今一度、学園ではお子さんの命を守る、守り切ることを最優先に雷対応について見直しをしたところです。ご家庭でもご一読くださり、ご理解いただくとともに、お子さんとの話題にもしていただけると幸いです。

記

◆白川郷学園における雷鳴が聞こえた時の対応について

○児童生徒が学園にいる場合

- ・4月に奈良県の中学校で起こった事故を教訓に、雷鳴が聞こえたらいかなる場合も児童生徒の外での活動を取りやめる。校外学習で学園外にいる場合も例外としない。

○児童生徒の下校時刻にさしかかる場合

- ・管理職が中心となって情報収集（実際に雷鳴を観測する、気象庁等のHPで確認する、必要に応じ岐阜地方气象台に確認する）を行い、学園で作成している「危機管理マニュアル」に基づいて①通常下校、②学校待機、③早め、遅めの下校、④引き渡しを、白川村教育委員会の指導の下、判断する。雲の動き、降雨の状況はもとより、最後の雷鳴から30分以内は頑丈な建物（校舎）に待機できるようにする。
- ・判断した情報は随時、教職員、児童生徒に校内放送で共有し、保護者にもメールで共有する。
- ・引き渡しの場合は、全教職員協力の下、分担どおり安全に速やかに下校できるようにする。

◆外にいる時に雷が鳴ったときの対応

（雷の電圧は家庭用電源の電圧の100万倍である「1億ボルト」と言われています。直撃するとブロック屏を粉々にするほどの威力であり、人体が受けると命の危険が・・・）

- ・広場から離れる、木に近づかない。
（高いものに雷は落ちやすい。木の下で雨宿りはNG）
- ・頑丈な建物の中や車の中に避難する。
（軒先で雨宿りはかえって危険。）
- ・最終手段は「雷しゃがみ」（右図参照）



*参考 NHK の HP

	白川村立白川郷学園		
	本件担当者	木下 広雄（副校長）	
	〒501-5629 大野郡白川村鳩谷 6 1 4 番地 1		
TEL	05769-6-1366	FAX	05769-6-1903
E-mail	srkgw02@shirakawa-vill.ed.jp		